

税の役割を知っても、負担とを感じるか？

弥富市立弥富北中学校

3年 鈴木友奈

「私の給料は100%税金から出ている。みなさんのためにも頑張らないと。」

市役所で働く母は、私によくこう言っている。新型コロナウイルスの影響を受けず、母が安定した収入を得られるのは税金のおかげだ。

先日、学校で行われた租税教室に参加した。その講師の方の次の言葉が強く印象に残っている。「税金はみなさんの暮らしを豊かにするだけではありません。国民の間の所得格差を縮める役割もあるんです。」私はこの話を聞いたとき、正直まったくピンとこなかった。そこで、事後学習として調べてみた。日本の所得税や相続税などの税金は所得や相続財産の多い人には高い割合の負担を、少ない人には低い割合の負担を求めるという「累進課税制度」がとられている。これによって、所得格差に応じて公平に納税額が決まるようになっている。また、この制度により納められた税金は、社会保障制度などを通じて、所得の少ない人の生活を助けたり、心身に障がいのある人の生活を助けたりするためにも役立てられている。私は調べた後、自分が納税者であることを誇りに思うとともに、税金に対して感謝の気持ちさえ覚えた。納税を通して、人の役に立てるのだ。

しかし、税金は決して良いイメージを持たれてはいない。なぜだろう。自分なりに考えてみた。税金を納めることと負担だと思っているからではないだろうか。そして、負担だと思っている人の多くは、自分が納める税金が誰かの役に立ち、また誰かが納める税金で自分の生活が成り立っていることを実感できていないのではないだろうか。税金のない世界を想像してみると、税金の重要性や大切さを実感できると思う。

救急車、警察、消防、教育、ごみ処理、年金、医療一。これらの公共サービスは、税金がなければ成り立たない。私たちの当たり前の生活は、税金によって支えられているのだ。私は、納税はモノを買うこととしくみが同じだと思う。モノを買うとき、お金を払う「義務」とモノを受け取る「権利」の両方が生じる。同じように、納税は国民の「義務」であり、国民は公共サービスを受ける「権利」がある。日本の場合、義務に対して権利が大きい。ただ、権利を実感できていない人は、義務、つまり納税に対して権利、つまり、公共サービスが小さく感じられてしまう。それ故に税金が重いと感じてしまうのかもしれない。

「日本国民で税金の恩恵を受けていない人は一人もいない」と今の私なら断言できる。少子高齢化による社会保障の増加、生産年齢人口の減少、新型コロナ対策費など、税金の必要性は高まっている。そんな今、みなさんの税金のイメージを変えてほしい。私も、税金に感謝し、小さな納税者として社会に貢献していきたい。